

人と自然が輝く水源の郷



地区別ふれあいサロン (楽っと)・久保地区のみなさん

- 定例会 (道志村一般会計補正予算、他) P 2
- 議案等の質疑 (自転車ロードレースは、他) P 3～4
- 一般質問 (2人が問う) P 6～7
- 議会活動報告 (各委員会記事、他) P 8～9
- あの一般質問は・今 (国道の景観間伐は、他) P10
- 紹介(株)スポーツデザイン研究所)/がんばる人紹介(きいちゃみせ 佐藤嘉徳さん) P11～12

みなさまの声を議会に

TEL : 0554-52-2112 FAX : 0554-52-2572 E-mail : gikai@vill.doshi.lg.jp

6月 定例会

旧県民信組道志支店の 土地建物購入を可決

6月定例会は6月11日から14日まで開催され、報告（1件）、専決処分の承認（2件）、条例制定（1件）、条例改正（3件）、一般会計補正予算（1件）、請願、発議、同意（各1件）を審議可決しました。

おもな審議事項

●報告

- ・平成30年度道志村一般会計平成30年度道志村一般会計繰越明許費繰越計算書の報告を受けました。

●承認（専決処分の報告を受ける） 2件

- ・道志村税条例等の一部を改正する条例
- ・平成30年度道志村一般会計補正予算（第5回）

●条例の制定と改正 合計4件を可決

- ・道志村森林環境贈与税基金条例の制定
- ・道志村各種委員等報酬並びに費用弁償条例の一部を改正する条例。
- ・道志村職員給与条例の一部を改正する条例。
- ・道志村介護保険条例の一部を改正する条例。

●令和元年度道志村一般会計補正予算を可決

- ・主な歳出 公有財産管理事業費（旧県信組道志支店土地建物購入）…………… 1307万円

●請願・発議・同意

- ・高齢者の村外の病院等への送迎についての請願
- ・新たな過疎対策法の制定に関する意見書
- ・道志村監査委員の選任につき同意を求めることについて

本定例会で委員会構成が次のように変わりました。

委員会名	委員長	副委員長	委員		
総務文教常任委員会	大田博文	杉本孝正	佐藤長久	出羽和平	佐藤進
建設厚生常任委員会	池谷高明	佐藤一仁	菅谷政文	佐藤和彦	佐藤進
広報常任委員会	菅谷政文	佐藤長久	杉本孝正	佐藤進	
議会運営委員会	出羽和平	大田博文	池谷高明	菅谷政文	

QA 議案等の質疑



Q 国道 413 号線大渡～月夜野間トンネル工事について

●現況と進捗状況は

A 現況は、6月の県予算で事業費を計上し、初めに大渡側の残土処理場を整備し月夜野側の橋脚工事のための進入路を整備する。

Q 自転車ロードレーステストイベントについて

●住民への交通規制の周知徹底は

A 現在は告知端末とインターネットを使い、これからは広報とチラシを配布し住民や事業者に周知して行く。また組織委員会では、すて看板やチラシ、ポスターや雑誌広告、新聞広告を使い、村内の2か所に横断幕を設置する。



●ボランティアの必要人数と説明会は

A 組織委員会からの必要人数は209名でコースサポーターについては7月13日に道志中学校にて昼、夜の2部で説明会を行い、テストイベントを迎えたい。

Q&A 議案等の質疑

Q 本年度は清流の花火大会が8月17日になっているが

●9月実施から8月への変更理由は

A 過去3回は、秋に行ったが天候も安定せず、本年度は学校行事や村の行事も多いため、日程を調整した結果、今年は8月17日に決定した。



Q プレミアム付き商品券事業

●プレミアム付き商品券事業の詳細内容は？

A 今回のプレミアム付き商品券は次の2項目に該当する家庭のみが対象となります。

- ・3歳児未満の子供のいる家庭の世帯主。(1口/子供1人)
- ・住民税の非課税世帯の世帯主。



2万円 / 1口金額…2万5千円分使用可 (村内業者にて消費)
実施予定期間…今年度中に完結

Q 学校給食について

●牛乳利用は子供たちが選択する事が出来るのか？
また、現在の米飯給食の割合は？

A 選択制は行っていませんが、全ての食材に対し無理強いはいないので、飲めない子供は残す場合もあります。
また現在、給食の割合は米飯3日、パン1日、麺類1日の割合で行っています。



山口博康議員を偲んで

令和元年5月17日早朝69歳で逝去されました。

博康さんは役場職員として40年間勤められ、特に建設関係には卓越しており数多くの道路新設改良を手掛けてきました。

あなたの持論は「100年先にも使える道路」「1cmでも広くカーブは滑らかに」でした。

議会議員になってからも地域の意見を聞き、すぐに現地に行き改善策を考えていました。

また、道路構造規格に合わない急カーブでの物損事故などは写真を付けて県土整備部に要望書の提出を行い、また、ボランティア活動では、保育所の子供たちにサツマイモの収穫体験をさせるなど、道志村特産品となったイモ焼酎への提供等も行うバイタリティあふれる議員でした。

昨年台風で通行止めとなった青根平丸地区では、1週間後に同僚議員と共に現地を視察し同地区選出の市議会議員を訪ね、早期開通を話し合いました。

あなたの偉業は数多くあり、今後も手本として議会活動を続けてまいります。

博康議員のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

Q 移住・定住事業の取り組みは A 移住者は年々増加している



出羽 和平 議員

出羽

移住・定住対策として、様々な事業を展開しているが、取り組みを始めてから移住者の実績は

ふるさと振興課長

移住者の実績は、平成28年度4人、29年度6人、30年度13人です。

Q① 移住対策事業、委託先との連携は

ふるさと振興課長

毎月の実績報告書提出の時と、その他に平成30年度には6回の意見交換会を開催しています。

Q② 委託先から課題解決のため要望とか提案は

ふるさと振興課長

住居用賃貸物件の不足

や、暮らしに役立つ情報

(便利手帳)などです。

また、保育所へ未満児の受け入れなど、子供のいる移住希望者からの要望があります。

Q③ 村営住宅建設の進展は

産業振興課長

建設場所については既存の集落内を想定し、2



移住支援センター外観
(ドライブイン宿となり)

棟建設する予定で候補地を絞り交渉しています。

Q 7月21日開催のオリンピック自転車ロードレースプレ大会の準備は

ふるさと振興課長

・コースサポーターは、229名の応募がありました。役割についての説明会を7月13日に行います。担当する場所や集合

場所などは調整中です。

・交通規制の周知は、組織委員会等から配布されたチラシを活用します。また、臨時駐車場を5カ所設置するなど、夏季の観光シーズンのために、いかに渋滞を解消させるかがテストイベントの重要な課題です。

Q 公会計を導入するメリットは

総務課長

財政の効率化・適正化を目標に説明責任が重要になります。

資産・負債の一覧的把握が可能となること、「固定資産台帳の整備等により、公共施設管理等への活用が可能になる」などの効果があります。

財務書類については、村のホームページ上で公表しています。



杉本孝正 議員

Q 村独自の教育プログラムの実施状況は

A 小中一体型校舎を活かし全学年で先行英語教育を実施している

杉本

令和2年度から実施される小学校5年、6年の英語の教科化に対する対応は

教育長

次期学習指導要領の令和2年度全面实施を見据え本年度から小学校5年、6年については週2



英語の授業風景（小学校）

時間、小学校3年、4年については週1時間の全面实施の場合と同じ時間を確保して先行実施しています。また、小学校1年、2年については村独自のプログラムに位置付けて特別に月1時間（年間12時間）の英語活動の授業を行っています。

Q 子どもが楽しい学校生活を送る学校運営（Q-Uモデル校）の取組は

教育長

小、中全児童生徒に対し年2回特別なアンケート調査を実施してその結果を分析し全教職員が情報共有し学校として指導の見直しや問題解決に役立てています。

Q 平成30年度のふるさと納税の実績は前年対比3倍以上となったがその要因と新制度に対する取り組みは

ふるさと振興課長

平成30年度のふるさと納税の実績は375件446万9千円となり、件数で5・9倍、金額で5・6倍です。この増加

の要因は納税サイトを2つにしたことや返礼品の見直しを行い、5品目から30品目にしたことが考えられます。また、新制度では返礼品は寄付額の3割以内で地場産品であることと適正な募集であることが義務付けられていて本村は「ふるさと納税の基準に適合する団体」として総務大臣より本年5月14日指定を受けています。

Q 本村の村民が他の自治体にふるさと納税をおこなっていると思うがその状況と傾向は

総務課長

ふるさと納税の制度が始まった頃はほとんど居なかつたが近年は納税者が増加している傾向です。

● **町村議会議長・副議長研修会（東京国際フォーラム）** 令和元年 5 月 28 日・29 日

5 月 28 日東京国際フォーラム、参加者 3000 人で開催された。

開会に先立ち櫻井全国町村議会議長会会長から小規模町村議会の実態と「議員なり手不足による町村議会のあり方研究会」の最終報告があり、議員の報酬と定数をめぐる状況は、地方分権による自治体議会の権限と役割が増大する一方、自治体議員に対する住民の厳しい目線の反映から定数削減、報酬削減の傾向にあり議会の存在価値にかかわる重要な問題となっている。小規模議会の在り方を求



めて「夜間・休日議会の挑戦」「住民に寄り添う議会を目指して」「住民に信頼され存在感のある議会を目指して」などの意見発表があり、今後の議会活動に大いに参考になる研修会となった。

● **総務文教常任委員会の活動**

令和元年 5 月 30 日

総務文教常任委員会では、昨年村当局に 4 項目の政策提言を行い、村当局からの回答について、委員全員で検討を行い、令和元年度の政策提言について右記の事項を協議した。

この 3 項目について協議を重ね政策提言を行うことを決めた。また、昨年村当局に政策提言を行った、小中学校グラウンドの水はけ改

- 1、オリンピック自転車ロードレース
- 2、小学校の英語教育とプログラミング教育
- 3、自主防災対策と訓練のあり方

良整備、池之原橋周辺一帯の環境整備は引き続き協議を行うことを決めました。

● **町村議会広報編集委員長会議**

令和元年 5 月 31 日

年 2 回行われる広報編集委員長会議が自治会館で行われました。

県内 13 町村で構成されているこの会ですが、今回は役員の改選もあり、本村も 2 年間の副会長を務めさせて頂く事となりました。



また、「どうし議会だより」も広報功労者表彰

規定により、次回の町村議会広報研修会において表彰の対象議会となりましたのも先輩議員の方々の努力と情熱があったからと深く感謝申し上げます。最後に行われる意見交換会では No.42 号の編集、校正説明に対して質問を頂き、また回答をする、そんなやり取りを各町村共に行い、今後に繋がる非常に有意義な意見交換が出来ました。

議会活動報告

● 町村議会研修会

平成 31 年 3 月 26・27 日

茨城県美浦村は関東平野の北東部に位置し、村の北部及び東部は霞ヶ浦に臨み、総面積は 66.61km²で人口は 1600 人程度であり、稲作が古くから営まれ、高品質の米や野菜などの生産が盛んであり、日本中央競馬会のトレーニング・センターがある「トレセンのまち」



美浦村議場での研修風景

として知られている。

そんな美浦村では情報システムの最適化を目指し、I C T 機器を導入し情報を住民に提供できる「災害に強い情報連携システム」を構築し、平成 25 年から議会にも I C T 機器「タブレット端末」を導入し、村執行部と村議会が濃密且つ即時性を持った情報共有、定例会における完全ペーパーレス化を実現した。

道志村議会でも議会改革の一つとしてタブレット端末の導入を考える中、実際に行っている、先進地である美浦村議会での研修は、今後の導入の良い参考になりました。

● 建設厚生常任委員会の活動

令和元年 5 月 22 日

5 月 22 日委員会を招集し以下の項目について検討しました。

- 1、神地地区から西側へのヘリポート設置について
- 2、令和元年公共工事入札予定について

これらについて説明を求めた。ヘリポートについては近年国道 413 号線の交通量も多

く、交通事故も頻繁に起きる中、1 分 1 秒を争う現場では、時間短縮が救命率に大きな成果が見込まれるので、神地より以西に必要という事を委員全員で共有しました。

公共事業の入札については、予定工事の確認を行った。今後も継続調査を行ってまいります。

● 町村議会研修会

令和元年 5 月 23 日

山梨県町村議会議長会主催による、自治功労者表彰式、町村議会議員研修に参加してきました。特別功労者 2 名、27 年、15 年、10 年在職者合計 12 名、優良町村議会表彰に山中湖村議会、町村議会表彰に鳴沢村議会の表彰式が有り、道志村議会より、10 年在職者表彰に佐藤一仁さんが受賞されました。

その後元多治見市長で現山梨学院大学大学院非常勤講師の西寺雅也氏による、「町村議会議員のあり方」と題し講演があり今後の議会活動の良い参考になりました。



佐藤一仁議員

あの一般質問は今…

平成28年3月定例会

質問

国道の景観間伐の実施場所は、また道坂峠の整備も必要と思うが

答弁

国道については、2里塚周辺他4か所の間伐を行い、道坂峠は水源基金を活用した事業で実施する。

平成28年9月定例会

質問

国道413号線の夜間照明の老朽化対策は

答弁

国道沿いの200本の街路灯は村が管理し、今後は設置個所の見直しを検討しており、一本ずつ確認し必要であれば交換を行う考え。

その結果今は



村管理の街路灯

国道については、確認し補強等を行った。村道の街路灯に関しては、老朽化所が多いので、今年度修繕と同時に器具の交換を行う。



整備が進む国道沿い

国道、県道都留線の景観間伐は地権者の合意が得られた個所から順次すすめている。

議会の考え

今後も事故の無いように継続的に整備点検をし、安心安全な村作りに努めてもらいたい。

地権者との合意形成を図り、道志村のイメージアップにもつながるので、本事業を推進すること。

紹介

水源の森指定管理者 (株)スポーツデザイン研究所

代表取締役 上柿 和生

水源の森に魅入られて



いま私は、ひとには「天運」という巡り合わせがある不思議さに驚き、その感慨に耽っています。私が育った故郷は、日本海に注ぐ清流由良川が流れる京都府北部に位置する蚕糸で栄えた綾部市で、平成18年に日本ではじめて「水源の里」条例を制定したところです。

これを思つと、水源の森を擁する道志村と私の故郷は清流の水源で深い縁があると感じるからです。

さて、弊社というより私は、高校時代より生物・

探検部の活動に没頭して、少年後期のほとんどを京都府の水源の森やその山中で、蝶や野鳥の姿を追つて過ごしていました。しかし、1964年の東京五輪開催年になると、迷うことなくスポーツの世界に身を投じ、あれこれやっているうちに、現在の生業であるスポーツメディアでペンを握り教壇に立っていました。

とは言い、むかし取った杵柄と言うかアウトドアスポーツの取材やイベントプロデュースをする



昨年7月オープンした水源の森キャンプ場

機会が増え、1973年に日本航空グアム便就航に合わせて「グアム島地球人学校」(JAL協賛)を企画運営し子どもの海外研修旅行の先駆けとなりました。

以来、沖縄県の離島・伊是名村の地域興し企画として、無人島を舞台にした「共和国ごんがりこなつ島」海洋冒険学校(86年〜今夏で34回目)の

開催、また「いげな88トライアスロン大会」(88年〜現在)プロデュースをすることで、国土庁「リフレッシュふるさとコンクール」(1990年)の優秀賞を受け、村に賞金2億円をもたらしました。

こうした企画成功の可否は、いかに地元の人々の協力と支持を得ることができるか、それをエネルギーにして多様なネットワークを築き、発信力と持続力を獲得できるかに懸かっていると考えます。

この度、縁あつて「道志水源の森」のリニューアル事業に携わる機会を得ましたが、これから村民の方々と楽しく面白

くなるネットワークを広げることができれば、「水源の森」はより豊かな森になることを確信いたします。

全国から世界から大勢の人々がやってくる素敵な森を育てるために、村民の皆さまの力強いご支援ご協力をぜひお願い申し上げます。

会社概要: 1989年設立/業種: スポーツビジネスのシンクタンク (内容: オリンピック・スポーツ関連の出版・編集・イベント企画、スポーツによる地域活性化のコンサルティング他) 主な事業/ミズノスポーツライター賞選考業務 (主催: 公益財団法人ミズノスポーツ振興財団) / 著書: 「無人島へ行こう」(窓社) 編著: 「スポーツアドバンテージ」(創文企画) その他、汐文社「冬のアスリートたち」全6冊・編集企画、各種雑誌に執筆多数。

がんばる人紹介

親切丁寧な接客を心がけ



佐藤 嘉徳さんご夫妻

昭和24年に大室指の旧道沿いに両親（佐藤喜一夫妻）が家建て、始めた店が「栄屋商店」でした。

当時の道志川の下流にはまだダムも無く鮎・ウナギなど遡上していて魚影も濃く、鮎の解禁になると東京や横浜方面から大勢の釣り人が泊りがけで来るようになり、釣り宿をしていた時期もありました。

国道413号線の大室橋が開通した昭和49年に現在の所に移り、地域の皆様や子供たちから「きいちゃみせ」とも呼ばれ多くの人の出入りがありました。



当時の栄屋商店

神奈川県内に就職していた私達が平成15年父親が亡くなったのを機会に道志村に戻り、「佐藤商店」として引き継ぎ16年が経ちました。

世の中の変化に伴い、釣り人も年々減少傾向になりましたが、一人でも多くの人たちに道志村に来て頂けるよう、親切丁寧な接客に心がけて多くの皆さんに気軽に寄ってもらえる様な店になればと思っています。

写真募集中

（議会だよりに掲載させていただきます）

広報常任委員会

委員長 菅谷 政文
副委員長 佐藤 長久
委員 杉本 孝正
委員 佐藤 進

編集後記

5月1日より新しい時代が始まりました。

新元号「令和」への期待が多方面で高まるなか、我々編集委員も4年間最後の年に入り「議会だより」も今回で43号となりました。

スタート当初は本当に何もわからない中での編集、校正でした。

先輩編集委員の協力と指導の中で多くを学び、毎回印刷日に間に合わせるのが精一杯でした。

その当事を思い起こせば多少は進歩したかなと自負できます。

先輩議員から教えてもらった「定例会の復習も出来るから」、その意味を今は非常に有り難く感じています、編集の基本である「わかりやすく、読みやすい」をいつも考え、残り一年間をさらに頑張ってまいり考えです。
（菅谷政文）